

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	新潟大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニイガタダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	農業工学インターンシップ
	学部・研究科等名	農学部
	担当教職員名・役職	大橋慎太郎・助教
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	20
	受入企業等数	8
	受入企業等名	受入企業から事前了承が得られなかったため、未記入。
	インターンシップの分類	6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	農業工学という専門分野が、社会でどのような役割を果たしているかを夏期休業中に10日間程度にわたって、企業や農林水産省・県の農業農村整備関連の事業所において就業体験を通して学びます。これによって、学部授業で身につけた専門知識が現場でどのように使われているのかを確かめ、将来の就職・キャリアデザインを考える機会とします。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している。3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	この科目は農学部の「就業力育成科目」の一環に位置付けられている。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている。2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	事後聞き取り
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事業所の下調べ、事業所と社会との係わりを主体的に調査する。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習を踏まえて気付いたこと、専門科目が実社会でどのように活用されていたかを報告する。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	事後の聞き取りから学生の受講態度、課題などを聞き取る。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前発表会、事後発表会、報告書を定量的に評価して、当該科目の単位認定に反映する。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	土日を除く10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	農業工学という専門分野が、社会でどのような役割を果たしているかを夏期休業中に10日間程度にわたって、企業や農林水産省・県の農業農村整備関連の事業所において就業体験を通して学びます。これによって、学部授業で身につけた専門知識が現場でどのように使われているのかを確かめ、将来の就職・キャリアデザインを考える機会とします。	

要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。7.その他
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	学科教員がインターンシップ後に企業を訪問し、受入れに係る課題、実習内容などについて聞き取りは行っている。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	PBL型インターンシップの場合、受入先と事前に研修内容と達成目標を協議している。学科での発表会とは別に受入先での発表会も行っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2016/0A/0A_160A3103_ja_JP.html
問い合わせ先	大学等名	新潟大学
	担当部署名	学務部連携教育支援課
	担当者役職名	専門職員
	担当者氏名	橋本謙司
	電話番号	025-262-6309
	メールアドレス	renkeikyoiku@adm.niigata-u.ac.jp